

こんなのでました！

「顔面把手付土器と翡翠の大珠」

桃園の台地の上、桃園団地と呼ばれているところに、縄文時代早期～中期の尾畑遺跡があります。この遺跡から、顔面把手付土器と翡翠の大珠が出土しました。

中部山岳地方から関東西部にかけては、この時代の人面土器が多く発見されています。深鉢に大型の顔面把手がつけられ、反対側には獣面と思われる把手がつけられています。よく見ると左手で頬づえをし、右手を胸にあてるようなかたちで、豊かな表情を浮かべています。

翡翠は古代には新潟県の姫川流域でのみ産出されました。この大珠はきれいに穴が開けられ、磨かれた表面は美しい淡緑色になっています。原始宗教の呪術的な意味で作られたのか、集落の首長が権威を示したものでしょうか。

この2点は、富士山資料館で展示しています。



「古墳から見つかった平瓶」

古墳時代後期になると、豪族以外の者も小さな古墳を作るようになりました。小古墳は一定の場所にまとまって作られました。

東小学校北側の中丸古墳群からは、3つの円墳が見つかりました。そのうち1号墳は長さ4.7m、幅1.2m、深さ60cmの長方形の石室が



あり、副葬品である須恵器の平瓶などがきれいな形で発見されました。この平瓶は祭祀用に使われたと思われます。

「中世の建物跡」

大畑城址南側の平坦地には、殿屋敷・上屋敷・中屋敷・下屋敷という地名が残っています。

国道246号裾野バイパス建設に伴う発掘調査で、上屋敷から掘立柱建物群4基、小鍛冶跡27基、中世墓1基が見つかりました。建物跡を見ると、南北10間×東西3間(およそ23m×7m)の大きさで、重なり合った柱穴を見ると、建替えや補修をしたものと考えられます。



いかがでしたか？市内には、未調査の遺跡も多く残っています。今後また新たな発見があるかもしれませんね。次号の『楽しい郷土史』は、市史第2巻 資料編 古代・中世を特集します。アジサイの咲く頃に発行を予定しています。お楽しみに。

編集・発行 裾野市生涯学習課 文化スポーツ室 / 深良435番地 / Tel.055-992-3800

当パンフレット『楽しい郷土史』は、市役所、生涯学習センター、鈴木図書館、市民文化センター、ヘルシーパーク裾野に配架しています。また、市ホームページでも公開しています。

楽しい郷土史だより 第1号

平成28年3月 裾野市教育委員会生涯学習課

裾野市史の編さん事業は、昭和62年から始まりました。平成3年、「資料編 深良用水」から発行が始まり、最終巻である「通史編Ⅱ」が発行されたのが平成13年のことです。このように、長い年月と多くの方々のご協力により編さんされた裾野市史は、私たちに、裾野市の成り立ちや昔の人々の生活を教えてくださいます。

最終巻の発行から15年たった今、改めて裾野市史を例にとり、私たちの郷土史を紹介します。

ふしぎ発見！考古学の世界

市史第1巻 資料編 考古

この巻は、中学校や高校の歴史の授業で勉強した縄文時代～弥生時代～古墳時代の史料を掲載しています。

裾野にも多くの遺跡があります。しかしこれらは土中に眠っていて、直接私たちの目に触れる機会はあまりないのが現状です。また、残念ながら自然災害や開発によって発見の機会を失い、又は消滅してしまったものもあります。

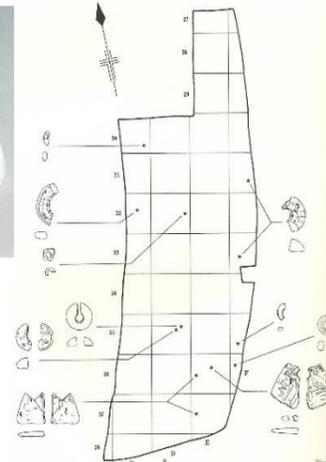
しかし、現在までに発見された貴重な遺構・遺物(住居跡、墓、石器、土器など)からは、当時の文化や生活様式を生々しく見るができます。これら史料を見ながら、古代の裾野に想いをはせるのも楽しいですよ。



大畑遺跡出土の中国産合子



須山滝ノ沢遺跡出土の蕨手刀



金沢上川遺跡の装身具分布

縄文時代の遺跡は須山でも見つっています。縄文時代中期、約5000年前のものです。

旧石器時代

裾野の近辺に初めて人が住み始めたのは今から3万年前、愛鷹山麓の県立愛鷹運動公園のあたりだと言われています。

縄文時代

今から約2200年前までの時代。富士山は何度も噴火を繰り返し、現在の形になりました。人々は縄の模様の土器や、石器を使い生活していました。

弥生時代

縄文時代のあと、300年頃までの時代。アジア大陸から稲作が伝わり、青銅器や鉄器が使われ始めました。後期には、建物が円形から方形に変化していきます。

古墳時代

700年頃までの時代。裾野にも、深良原の上丹古墳、茶畑中丸古墳群があり、副葬品には小刀や焼き物が出土しています。